

DI 委員会トピックス

4 週 1 回投与の持続性抗精神病薬注射剤 ゼプリオン®水懸筋注シリンジ

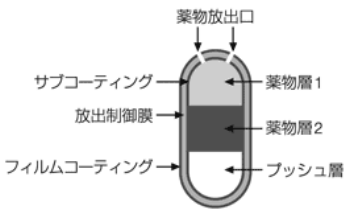
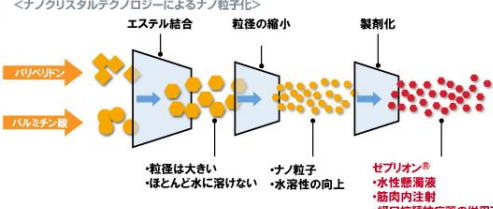
統合失調症は、再発を繰り返すことにより、徐々に社会生活機能が低下し、完全な機能改善が困難になるなどの再発・再燃に関する種々の問題が挙げられている。これらの問題を解決し治療を成功させるためにはアドヒアランスが重要で、特に薬物療法に対するアドヒアランスの向上が重要な課題として考えられている。

一方で、抗精神病薬の持続性注射剤は、統合失調症治療において重要なアドヒアランス向上に有用であり、統合失調症患者における再発リスクを低減させることが示唆されている。

ゼプリオン®水懸筋注シリンジ（以下、ゼプリオン®）は、パリペリドンパルミチン酸エステルの水性懸濁液であり、筋肉内に投与することにより投与部位で徐々に溶解し、加水分解され、活性本体であるパリペリドンとなり吸収される。パリペリドンはリスペリドンの主活性代謝物であり、ドパミンD2受容体およびセロトニン5-HT2A受容体に高い親和性を有するセロトニン・ドパミンアンタゴニスト（SDA）に分類される。すでに本邦においては統合失調症を適応症とした放出制御型の徐放錠（インヴェガ®錠）が販売され、臨床使用されている。

そこで今回、両剤のDI情報を紹介する。

《DI 情報》

薬剤名	インヴェガ®錠	ゼプリオン®水懸筋注シリンジ
効能・効果	統合失調症	
特徴	 浸透圧を利用した放出制御システム（OROS）を応用した、パリペリドンの放出制御型の徐放錠である。	 ナノクリスタルテクノロジーにより、パリペリドンパルミチン酸エステルを微細粒子化し、水性懸濁液として持続性製剤化が可能となった注射剤である。
用法・用量	通常、成人にはパリペリドンとして6mgを1日1回朝食後に経口投与する。なお、年齢、症状により1日12mgを超えない範囲で適宜増減するが、増量は5日間以上の間隔をあけて1日量として3mgずつ行うこと。	通常、成人にはパリペリドンとして初回150mg、1週後に2回目100mgを三角筋内に投与する。その後は4週に1回、パリペリドンとして75mgを三角筋又は臀部筋内に投与する。なお、患者の症状及び忍容性に応じて、パリペリドンとして25mgから150mgの範囲で適宜増減するが、増量は1回あたりパリペリドンとして50mgを超えないこと。
作用機序	主としてドパミンD2受容体拮抗作用及びセロトニン5-HT2A受容体拮抗作用に基づく、中枢神経系の調節によるものと考えられる。	パリペリドンパルミチン酸エステルは、活性本体のパリペリドンに加水分解されて薬効を示す。パリペリドンの作用機序は、主としてドパミンD2受容体

		拮抗作用及びセロトニン5-HT _{2A} 受容体拮抗作用に基づく、中枢神経系の調節によるものと考えられる。	
主な副作用	高プロラクチン血症、精神症状、体重増加、 錐体外路障害、便秘等	高プロラクチン血症、注射部位疼痛、注射部位硬結、 不眠症、精神症状、アカシジア等	
禁忌	(1) 昏睡状態の患者 (2) バルビツール酸誘導体等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者 (3) アドレナリン、クロザピンを投与中の患者 (4) 本剤の成分、パリペリドン及びリスペリドンに対し過敏症の既往歴のある患者 (5) 中等度から重度の腎機能障害患者（クレアチニン・クリアランス50mL/分未満）		
薬価	インヴェガ®錠3mg 246.2円 インヴェガ®錠6mg 452.8円 インヴェガ®錠9mg 574.0円	ゼプリオン®水懸筋注25mgシリンジ 18712.0円 ゼプリオン®水懸筋注50mgシリンジ 22996.0円 ゼプリオン®水懸筋注75mgシリンジ 39531.0円 ゼプリオン®水懸筋注100mgシリンジ 48083.0円 ゼプリオン®水懸筋注150mgシリンジ 63368.0円	
参考			
・ ゼプリオン®水懸筋注シリンジインタビューフォーム ・ インヴェガ®錠インタビューフォーム ・ 持効性抗精神病剤「ゼプリオン®」情報サイト http://www.lai.jp/dr/product/xep/			